



令和5年(2023年)第15週 2023年4月10日(月)~2023年4月16日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



ヘルパンギーナが急増しています。熊本県内や九州では警報レベルに達しているところもあり、注意が必要です。丁寧な手洗いを心がけ感染予防に気をつけましょう。

●ヘルパンギーナについて

コクサッキーウイルスなどのエンテロウイルスの感染により、口の中の粘膜に小さな水ぶくれ(水疱)ができる感染症です。1~4歳くらいまでの乳幼児がかかりやすい夏風邪の代表的な病気の1つです。

◆どんな病気?

・**症状**……突然の発熱(38~39℃)に続いて、のどが赤く腫れて痛み、口の中の粘膜に直径1~2mmほどの小さな水疱ができます。水疱が破れて浅い潰瘍になると痛みを伴います。

・**潜伏期間**…2~4日程度

・**感染経路**…感染者のくしゃみのしぶきや鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって感染します。症状がなくなったあとも、2~4週間は便の中にウイルスが排泄されます。

・**流行期**……熊本市の過去5年間のデータでは、5月頃より増加し始め、8月頃にかけてピークとなり、秋ごろまで続く傾向があります。

◆かかったらどうすればいいの?

・ほとんどの場合、特別な治療は必要なく自然に治りますが、まれに髄膜炎や心筋炎を合併することがあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。

・口の中を痛がって、水分や食事がとれなくなることがあります。薄味でやわらかいもの、白湯やスポーツ飲料などをこまめにとらせ、脱水にならないようにすることが大切です。

◆予防法は?

・手洗いが基本です。特に感染者の排便後の手洗いが重要です。

こどものおむつを取り替えた後や、鼻水をとった後などは、しっかり手を洗いましょう。



期 間		2023年 14週		2023年 15週	
		4/3~4/9		4/10~4/16(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		43	1.79	41	1.78
RSウイルス感染症		5	0.33	8	0.57
咽頭結膜熱(プール熱)		2	0.13	1	0.07
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	0.13	2	0.14
感染性胃腸炎		42	2.80	41	2.93
水痘(みずぼうそう)		0	0.00	0	0.00
手足口病		1	0.07	1	0.07
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		10	0.67	6	0.43
ヘルパンギーナ	増加中!!	18	1.20	33	2.36
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		1	0.07	3	0.21
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		4	0.80	3	0.60
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00